

「小学校英語教科化に向けた資質能力向上事業」

調査の概要

◆課題認識

- ・小学校英語が教科化され、平成30年度から移行期間が始まる
- ・小学校教員が新しい指導内容である「読むこと」「書くこと」の指導ができるよう、資質向上を図る研修の実施が喫緊の課題となっている

◆調査研究の目的

- ・民間教育事業者の外部講師を小学校等に派遣して研修を実施することを通じて、小学校教員の指導力向上を図ること

◆調査研究の方法

- ・専門性の高い研修を外部委託する→研修内容の専門化及び出張の負担軽減

◆研修実施校

- ・千葉市を除く県内53市町村中、21市町及び地域で開催、614名が参加
- ・受講者による伝達講習は、小学校391校で実施、延べ6,077名が参加

◆現状

- ・千葉市を除く県内小学校数：682校
- ・千葉市を除く本務教員数：15,474名（平成29年5月1日現在）
- ・その他の研修：英語教育推進リーダーによる中核教員養成研修を神田外語大学で夏季休業中に実施、平成26年度より年間約180名が参加

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①ポイントA

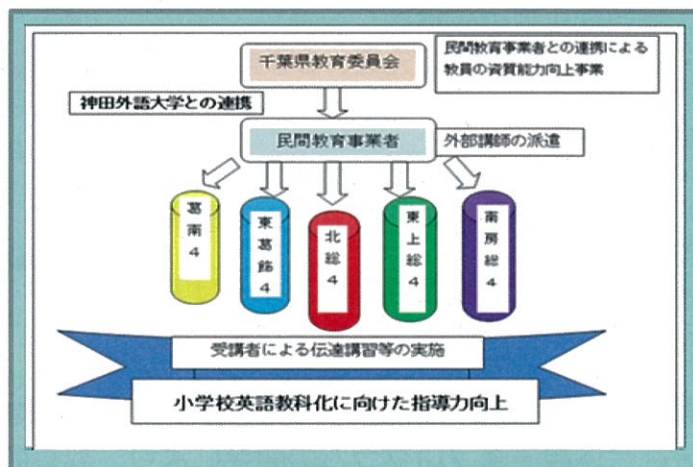
- ・これまで開催時期や開催場所が限られていた指導力向上研修を民間教育事業者を県内21か所に派遣して専門性の高い研修を実施へ

②ポイントB

- ・これまで「話すこと」「聞くこと」の内容だった研修に「読むこと」「書くこと」の内容を加え、新学習指導要領に対応した指導力向上研修へ

◆成果

- ・これまで参加者が限られていたが、講師派遣により近隣で受講できるようになった
- ・新しい指導内容である「読むこと」「書くこと」の指導が課題となっていたが、専門性の高い研修を受講し、指導できるようになった（研修参加者における研修内容の満足度が98%（H30年2月時点））



今後の課題

◆「外国語科・外国語活動の授業力向上」の支援

- ・民間教育事業者の外部講師を多くの小学校に派遣することにより、近隣での研修開催を継続化
- ・民間教育事業者のもつ「読むこと」「書くこと」の指導技術の活用による実践的な授業力の向上